

公営企業会計

水道事業会計

モニタリングは
どのような内容か

奥山委員

水道事業経営戦略の事後検証に、年度ごとにモニタリングを行うとあるが、どのような内容か。

上下水道課長

効率的で健全な企業経営を目指し、投資財政計画の実施、あるいは進捗状況について分析、評価、検証を行っている。

奥山委員

水道料金の改定について



でのモニタリングにおける今後の考え方は。

上下水道課長

毎年度の決算値に基づき将来推計の再推計を行うことで、料金改定のタイミングを見極める必要があり、水道経営審議会などのご意見をお聞きしながら検討したい。

町立病院事業会計

医療費用における課題は

奥山委員

医療収益が減少しているなか、医療費用が増加しているが、課題は何か。

病院事務局長

主に経費が増加したものであり、医療機器の購入の際には、保守費用についても十分検討する必要がある。

人材の確保について

奥山委員

医師不足が叫ばれているなか、研修医の受け入れをすることが医師確保に効果があると思いが、状況はどうか。

病院事務局長

毎年10人以上、月平均一人以上の研修医が、町立病院で1カ月



奥山委員

地域医療研修を行っている。その中で将来本町に来ていただくということは、なかなか見通せない状況である。

病院事務局長

薬剤師の確保も課題となっている。採用についてはほかの病院の状況なども参考にしながら、うまくいく方法を検討する必要がある。

監査意見

計画的・効率的な行財政運営に努めるとともに、新たな課題を克服しながら、町政の発展と町民の福祉の向上が図られることを期待する。

実質収支は6億5669万2千円の黒字となり、実質収支比率は、前年度に比べ1.3ポイント減少し、13.3%となった。

経常収支比率は、0.3ポイント上昇し89.2%となり、80%台は維持しているものの硬直化は続いている。

上昇が続いていた町債残高は、発行額が償還額を下回ったことにより、1億8255万6千円減少したが、実質公債費比率は8.7%と前年度に比べ0.3ポイント上回った。

主な事業では、子育て支援、小中学校のICT環境や郷土資料館の整備、若者定住を促進する移住・定住対策、町道や橋梁の長寿命化対策など積極的に事業が展開されたことを評価する。

当年度は「第6次白鷹町総合計画」がスタートした年である。今後も厳しい財政状況が続くが、共創のまちづくりの理念の下、新たな課題を克服しながら、町政の発展と町民の福祉の向上が図られるよう一層の努力を望む。

代表監査委員 竹田 謙一
監査委員 丸川 雅春